

令和 8 年度 2 学期 始業式 挨拶

皆さん、おはようございます。夏休みに入る前に、安全に留意して、また新学期に、と伝えましたが、皆さんは無事に新学期を迎えられたことと思います。暑さがまだまだ続きますが、二つの学校行事を直前に控え、様々なことが動き始めます。今日から気持ちを切り替えて、また新たな一歩を踏み出しましょう。

この夏、皆さんの日々はどのようなものだったでしょうか？小山台の皆さんが活躍された様子をいくつかを紹介します。

例えば、探究活動 MIRAI の発表会で、3つの文学作品に出てくる女性のセリフを分析し、「女性」という枠組みについて考察を行った探究活動の発表がありました。費やされた熱量の高さ、着眼点について、指導助言をされていた先生からも「誠実」な取り組みに称賛のコメントが寄せられたことは1, 2年生も記憶していると思います。美術班では、今年も文化系のインターハイと呼ばれる高校総文祭に参加を決め、秋田県まで行かれたことは終業式でも紹介したとおりです。美術作品は決められたルーティンをこなすのではなく、常に何かを「ひたむき」に創造し続ける取組ですから、毎年のように全国という大きな舞台にその作品が並ぶことは本当に素晴らしいことです。MIRAI の発表も美術班の活躍も小山台らしい「誠実」さや「ひたむき」さを感じさせるものでした。

また、運動班では、硬式野球班が、夏の甲子園の東東京大会でベスト16まで上がりました。ネットニュースで相手校の先生が「小山台のピッチャーは本当に丁寧にコースをついてきた。シフトでヒット性のあたりもすべて止められた。よく研究されていたと思う。」というふうに述べています。これを聞いてわかるのは、本校の生徒たちがこの試合に本気で勝ちにいていたということです。彼らはどうすれば勝てるのか、何をすべきなのかということを考えて行動していたのです。勝つために戦略をとり、「したたか」に勝負に臨んだ姿は小山台らしさを感じさせるものでした。陸上競技班では、混成競技で全国5位の記録を出しました。5月、6月そしてこの7月と、この選手の記録はステージが上がるにつれて伸びています。普通大きな大会になれば、緊張して練習の時と同じようなパフォーマンスが出せばよい、となることが多いですが、この生徒は大きな舞台に上がれば上がるほどその記録が伸びていきました。しかも都の大会、関東大会、全国大会も、私は実際に競技場でこの選手の様子を見ていましたが、大きな舞台をむしろ楽しむ「大胆」さが印象に残っています。硬式野球班のように考えて「したたか」に勝負に臨んだり、陸上競技班のように大きな舞台で「大胆」に自分の力を出したりするのも小山台らしいと感じました。

こういう話を聞くと、いやいや自分には関係ない話だ、と思う人もいるかもしれません。自分は美術班や陸上競技班の人たちのようにはなれない、と思う人も少なくないはずです。それは特別な人たちで、自分は違う、と固く信じている人も多いでしょう。しかし、今日紹介した人たちは皆さんと同じ制服を着た、今この体育館かオンラインの向こう側でこの話を聞いている小山台の生徒です。ネットやメディアで紹介された人ではありません。皆さんは気づかないうちに、今紹介したようないわば「すごい」人たちと一緒にいるのです。たまたま探究活動が優れていたり、相手の嫌がるコースにボールを集中させるバッテリーだったりするように、だれもがどこかで、自分の力を発揮できるチャンスは私たち全員に与えられています。高校は同じような学力で同じ入試を突破した人たちが集まる場ですから、その中で野球が得意だったり、文

学作品が好きだったり、という以外は大きな差はないはずです。そして、今日紹介したものは、私が見たり聞いたりしたエピソードだけですから、皆さんの中にも、この夏、私が知らないところで大活躍をした小山台の生徒はたくさんいたはずです。

皆さんは先生方から「高みを目指して」と言われることがあると思います。高みを目指すことのメリットは、先ほど紹介したような人たちがいる本校での生活を冷静に考えればわかるはずです。ただし、高みを目指して、というのは班活の全国大会だけではありません。たとえそれが小さなものでも、届くか届かないかわからないものでも構いません。まずは手を伸ばしてみる勇気がとても大切です。今日、登校することにさえ、勇気が必要だった人もいるかもしれません。それも大切なものです。そんな大きな勇気、小さな勇気をもって皆さんも2学期を過ごしてほしいと思います。そして、小山台の生徒全員が持っている、「誠実」、「ひたむき」、「したたか」、そして「大胆」な、そんな力を様々な場面で存分に発揮してほしいと願っています。

私からの話は以上となります。